

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400988		
法人名	医療法人 安田会		
事業所名	グループホームるしだ		
所在地	熊本県玉名市横島町横島3399番地1		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

10周年を迎えることができた。この間、中心となる職員が長く勤務し続けているのが強みで、ケアが安定している。この土台を大切に新たな試みにもチャレンジしていきたい。医療法人が経営しているので、日頃の体調管理から看取りまでいつでも医師がそばにいるところが大きな利点。家族にも安心感を与えている。建物は天井が高く、通常の民家とは比較にならない程日当たりがよい、リビングホールからバリアフリーでウッドデッキ、庭園と続いているので、毎日広い範囲を安全に活動できる。バスの路線が途絶えてしまったが、併設施設を含め全て平屋の造りで、住宅地の中の風景に自然に溶け込んでいる。地域住民は徒歩や自転車で気軽に訪れることができる。現在は個別ケアを強化しており、少人数の利点を生かし、個別の夕食や旅行にも対応することで、軽度者と重度者が共同生活を送って

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年を経たホームでは、これまでの積み重ねと医療との連携及び日々の健康管理の徹底は、入居者や家族の安心感を与えている。平均介護も高い中で潜在能力を生かした支援(縫い物・編み物・日記の継続等)や、入居者同士が穏やかな労いのある日常は職員が日々の研鑽を重ねながらも暮らしの場所としての寄り添いや自然体での関わりの成果が表れている。定例会の中に研修を組み入れたり、勉強を重ねた若年性認知症の受け入れ等職員のモチベーションも高く、昼食後の入居者と職員との話し合う姿に、特段変化のない職員体制の利点として、馴染みの関係性の中で安心したホームが形成されている。10年間の歩みは地域の中で盤石な基盤となり、家族の思いに応え、家族及び隣接母体や主治医、職員が一丸となり大往生への寄り添いに敬意を表したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の元、職員と入居者は家族同然のような関係を築いている。特に地元横島町出身の入居者は近所の方や民政委員の面会、敬老会への出席等地域とのつながりも維持できている。	地域密着型としての理念のもと、定例会議や理念に即したケアかどうか等気になる時には臨時の話し合いの場を持っている。地域の中での生活基盤は確固たるものが築かれているが若年性の受け入れ等もあり、開設10年目を区切りとして現状を踏まえた理念の見直したいとする意向もある。	理念に即したケア姿勢や地域密着型として地域に根差したホームであることが確認された。理念に基づく目標を立てることで、理念が更に身近なものとして捉えられると思われる。目標達成に向けた検証を振り返りの機会として有効に活用頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から話し相手としての訪問がある。月1回歌のボランティア、年2回踊りのボランティアの訪問がある。運営推進会議を通じてAEDや消火器の訓練に地域の人を招待している。次年度より運営推進会議に駐在所職員が出席予定。	地域ボランティアによる催し物の定期的な訪問や入居者との話し相手に毎日のように訪問される近隣住民、地域の中での買い物、のど自慢大会や小学校の運動会見学等地域住民との交流に取り組んでいる。また、町の文化祭への作品の出品は自信の回復として生かされるとともに日々の活動に生きがいを見出す機会となっている。区費の支払いや消防団への寄付及び清掃活動等地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等で市町村や地域包括支援センターに可能な範囲で協力する体制がある。運営推進会議を通して地域住民に啓蒙している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の生の情報を細かく教えてもらえるので、非常に役立っている。また、老人会でよく旅行に行くということで、外出先のお勧めの場所を教えてもらったり、畑の栽培等のアドバイスももらえる。	定期的に関催される運営推進会議は写真による個別活動報告や勉強会を組み入れ、議題を提示して意見交換とともに地域及びホームの情報発信源として生かされている。また、委員との雑談のなかからも有意義な事案を見出し、サービスに反映させている。年に1回は家族会との合同で開催しており、今年度は10周年として入居者と家族・地域代表や全職員等多くの参加により10年の歩みを振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護が3名いるため、市町村とは連携が欠かせない。運営推進会議では防災の話題で地区の防火水槽の場所が知りたいと依頼したら、次の会議でマップを提供してもらえた。	行政や社協と連携しながら生活保護利用者を支援し、支所からの慰問の紹介、地域包括からの在宅生活困難事例の相談等協力関係が築かれている。また、介護更新代行に行政に出向いたり、訪問調査時の立ち会い時状況を発信している。運営推進会議にも毎回参加を得ていることも良好な関係であることが窺われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会で学んだことを、ホーム内の勉強会に取り入れ報告会としてフィードバックしている。	身体拘束廃止方針を掲げ、外部研修参加者により復講を行っており、全員が拘束の弊害を正しく認識している。又、ひやり・はっと事例検討によりアンケートを行い、職員個々の思いや意識の違いを把握し、目配り・気づきを強化させている。管理者は職員の声のトーンや大きさ、何気ない行動が利用者にも与える影響について投げかけ、ホーム内では居室とホールを自由に行き来される姿もあり、家庭的で自由な環境は落ち着いた生活の場として生かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に、必要時には検討会の場を設けて注意を喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用した方がよい入居者が数名いるので、状況を見ながら社協と連携し家族を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時の取り決めや個人情報等重要なポイントは、ホーム長がじっくり時間をかけて説明している。報酬改正のような時は重要事項説明書を再度発行し、一人一人説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の出席者が以前と比べ見込めない中、誕生会を重視し、家族の都合に合わせて開催するようにしている。入居者、家族、職員で楽しく食事をする事で、話やすい雰囲気を作っている。	入居者との関係が構築しており、直接自分の気持ちを訴えられる等言い出しやすい環境となっている。家族の訪問時の状況説明や要望等を聞き取りしている。遠方の家族には随時の電話連絡や写真等による近況報告、家族の都合に合わせた誕生会の開催は訪問に繋がり、家族会の中でアンケートを行ったり、職員との意見交換の場によりサービス向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議が行われているが、各職員に意見を求めて双方向性が強いものにするよう努めている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、体温チェック表を申し送りノート代わりに活用しながら情報の共有化としたり、職員同士も随時話し合う等意思疎通の良い関係である。また、毎月の定例会議により職員の意見や提案等をサービス向上に反映させている。ホーム長も毎日ホームに訪れ、入居者の状況把握や職員とのコミュニケーションに努め、入居者と職員との忘年会を開催されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇の影響もあり、日中の人員配置が厳しかったこともあり、前年度職員を1名増員した。クリスマス忘年会ではプレゼント交換をする等業務が大変な中でも、楽しい雰囲気を作るよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若年性認知症の学習会はグループホーム主催で実施できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の支部会、認知症サポーターのネットワークを大切に、会合には積極的に参加している。支部会では年に1度「ふれあい交流会」を行い、歌等を披露しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や情報収集を行い、関係作りが行いやすくなるよう努めている。可能なかぎり本人、家族の事前訪問、お試し利用を勧めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	以前より遠方の家族が増えたため、携帯電話の支援や、家族の要望に応え、希望者の方にはオムツ処理を産廃業者に依頼する等の支援を始めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	65歳の方が入居したときは、初めての喫煙者だったため、喫煙スペースを作ったり、若いので個別に天草や久留米にドライブに行ったりと、他の方とは違う支援に努めた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が「やりたい」と思った活動は、時間がかかってもできる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族会時には、日頃の様子を伝え、家族の想いも確認し、本人の支援に活かせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数名の方は、入居前に通っていた美容室を今でも利用している。教会のミサに通う方も、病院受診のため以前よりは回数減ったが、知人の訪問は逆に増えた。	家族や知人、教え子の訪問や、自宅での法要参列、地元の敬老会参加や郵便局へ家族と出かける方等家族の協力も得ながら、これまでの関係性が途切れないよう支援している。また、初詣や3ヶ日は雑煮、鏡開きのぜんざいと慣習の継続や日記や生け花等習慣や趣味等継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入浴の順番や、食卓、ドライブ時の位置等において、それぞれの関係がこわれぬように配慮して決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になると契約終了になるが、希望があれば併設施設で受け入れ、当ホームへの入居待機という対応を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や家族との話し合いの場で、家族の負担も配慮しながら支援できるよう努めている。	職員は入居者とよく会話を交わし、特に入浴等1対1の支援時にコミュニケーションを図り、会話の中での思い等を家族に代弁したり、家族も入居者の思いを代弁されている。また、言動や表情等により推察し、家族と話し合いながら本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や面会時の話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や日誌等を活用し、個々の状態が把握できるような体制を作っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの職員が「気づきカード」に記入し集約することで、個々の支援が強化できるよう努めている。必要時には、電話や面会時に話し合いの場を設け、報告、情報収集ができるように努めている。	入居当初は暫定プランのもと本人を知る期間として1ヶ月間の短期目標を立て、日々の評価と1ヶ月後の評価により心身の状況を見極めプランを策定している。本人・家族の要望や気づきカードにより職員の意見を収集し、変更すべき事項は追記し、家族の訪問時や電話等により意向等を聞き取りし、介護認定更新に合わせ新たなプランを作成している。	日々の記録は職員の観察力や気づきが反映されている。定例会議の中にケアカンファレンスの時間を組み入れ、記録を残すことを検討いただきたい。更に職員の観察力が生かされたプランとなるものと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて現状を把握、情報の共有をし、サービス提供に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の奥様が亡くなった時、礼服を着て葬儀の参列から火葬まで立ち会えるよう支援した。ボランティアの支援で浴衣の着付けや化粧をしていただき、茶話会を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室は通常は現地に行くのだが、依頼すれば、事業所でもカットしてくれる。地元の敬老会に出席する入居者もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の他、家族の送迎が困難な場合は、認知症疾患医療センター等の遠方の医療機関にも職員が送迎の支援を行っている。	入居者・家族の希望のかかりつけ医としており、入居前からの元々の主治医を継続されたり母体医療機関への変更等希望に応じている。協力医へは職員が受診支援を行ない、専門医等の受診時は家族の対応として、情報共有の為ホームからも同行し医療機関へ情報提供している。体温チェック表にバイタルや個々の状態を記入し職員間で共有すると共に、主治医への相談等連携しながら適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力で、様子を見にきてもらったり、日誌や体温表で状態報告を行ったりと密に連携をとっている。夜間も看護職が一人勤務しているので、緊急時には応援に来てもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時に情報交換を行っている。入院中にも経過状況の確認を行い、病院側、家族との調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いに力を入れている。前年度看取った方も、職員、家族の厚い支援の下、国から100歳の表彰を受ける等素晴らしい終末期を過ごすことができた。	体調変化時は主治医を交えた話し合いの機会を持ち、医療への希望などを聞き取りしホームでできる支援を説明している。状態に応じた段階での繰り返しの話し合いで家族の意向を確認しており、職員は看取りの勉強会を行い、家族との関わりや人の気配のするホームでの尊厳ある最期を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているので、AEDを使った蘇生法等の応急手当訓練を消防署に依頼している。運営推進会議を通して、事業所にAEDがあるので、必要時は利用してほしいと周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は職員が自分達で何が不安かを話し合い、毎回異なる想定で訓練を行っている。水害については運営推進会議で避難ルートや注意事項を話し合い出席者の意見を参考にしている。	ホームの火災避難訓練には運営推進会議委員等の参加や法人施設の協力が得られ、火元については事前の周知を行わない等現実味のある訓練となっている。又、日常の火元チェックで先ずは火を出さない事を意識付け、防火安全対策の勉強会を実施している。自然災害については運営推進会議での話し合いや、防災マップで防火水槽の位置や避難ルートを確認している。	自然災害に対するシュミレーション等を検討され、有事の際の備蓄についても職員間での話し合いが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前は外から見えていた室内も、玄関にガラスフィルムを貼り外から覗けないようにしたり、必要な居室にのれんをつけたりと、プライバシー対策を強化している。	入居者が職員の会話のトーン等を気にする発言に、話し合いの機会を持ち、言葉遣い等で気になる時はお互いに注意喚起し合える環境作りに努めている。入浴時の同性介助や衝立の使用等プライバシーに配慮し、尊厳を損ねない対応に努めている。個人情報使用については写真掲載を含めた同意を交わし、守秘義務の遵守等情報管理に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、個人で選択できる場面をもち、意見が取り組めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそうよう努めているが、重度化した方のケアに時間を割くことで、他の方への生活支援が十分にできない場面があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の奥様が亡くなった時、礼服を着て葬儀に参列するように支援した。ボランティアの支援で浴衣の着付けや化粧をしていただき、茶話会を行った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々好きなものを一緒に作って、普段のおやつや食事として取り入れている。(例)あんこ作り→おはぎ、いきなり団子、ぜんざい。いなり寿司作り、ピーナツ豆腐作り、のりの佃煮作り。	入居者に食べたい物を聞きながらその日の献立を立て、入居者も牛蒡そぎ等の下ごしらえや時間をかけたピーナツ豆腐・あんこ作り等に取り組んでいる。又、四季に応じた行事食・本人の好物メニューでの誕生会や、おにぎり持参での外での食事は楽しみの支援となっている。食事時間は介助をしながら職員も一緒に食事を摂り、入居者との会話も弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ食事(水分)形態を変えたり、状況や嗜好に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時には、チェック表を活用し、排泄パターンの確認を行い、個人に合わせた誘導とは排泄介助を行っている。	個々のパターンを把握するために排泄チェックを実施し、区切りの時間や様子を見てトイレに誘導したり、自分で行かれる方にはさり気なく見守りしている。又、場所の認識に居室からトイレまでの動線の印を付けたり、その日の活動や昼夜で排泄用品の種類を使い分け自立に向け支援している。夜間はポータブルの使用もあり洗浄消毒で清潔を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を毎日行っている。食事には季節の野菜や果物を取り入れ、固めの食材については、調理の仕方も工夫している。飲み物も状況に応じ、種類を選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必要、要望時の入浴は対応できている。	毎日支援できるように準備し、入居者の希望に合わせて毎日の入浴や、夕刻の時間等希望や体調に応じ支援している。拒否に対しては無理強いをせず声かけの方法を工夫したり清拭・足浴等で清潔保持に努めている。又、楽しみの支援としてしょうぶ・ゆず・バラ湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンの中で状況に応じて、または希望時に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の職員がホームに薬を届けに来るので、業務中でも薬の説明を丁寧にしてもらえる。内服の変更があれば、薬効、副作用を知り、口頭又は申し送りを通じ、職員間で確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動への参加が習慣となり参加したり、状況に応じた声かけで参加したり、様々なパターンがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事としての外出は、ほとんどの方ができている。近所や庭の散歩等日々の外出を試みているが、全ての方の参加は難しい。特に冬季はガラス越しの日光浴を楽しまれることが多い。	個々の身体状況により全員での外出が難しい傾向であり、行事としての外出から個別支援を多くしていく事で入居者の希望に応じている。天候に合わせたその日の散歩や、スーパーへの買い物・教会のミサに出かけられたり、ドライブや法人行事・季節の花見等が支援されており、家族の協力での外出や外食等に出かけられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得ながら、お金を所持する入居者もいる。可能な方には、できるだけ自分で財布からお金を出して払うところまでやってもらうよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由に利用できるよう支援している。最近は携帯電話をもっている方もいて、個別に着信対応の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓が大きいので、室内はとても明るく広い。それぞれのテーブルの会話も遠くまで聞こえない。ウッドデッキの上にもベンチを設置し、開放的にくつろげるようになっている。	高い天井やゆとりある広さのリビングには入居者が参加し作成した貼り絵の大作や手芸・書の作品、活動写真等で和みある環境が作られている。中庭に続く広い窓辺で日向ぼっこをしながらうたた寝をしたり、針仕事に勤しむ等入居者の穏やかな日常が支援され、入居者と活けた花にも季節感が漂っている。温湿度管理や小まめな清掃で快適な場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングの各所にイスやベンチが設置されており、家族が面会にきたり、テレビを見たりと用途に分けて離れて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては最小限の設備を用意するだけで、契約時に本人の馴染みのあるものを持ち込んでほしい旨を伝えている。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを家族に依頼し、タンスや三面鏡・家族写真・位牌・聖書等が持ち込まれている。備え付けのクローゼットに本人が使いやすいように段ボールを利用した整理箱を準備したり、壁面には誕生会の写真を飾る等家族や職員と一緒に部屋作りを行い、ベッド位置も本人に合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の理解度により、トイレや居室等の表示の仕方を検討したり、足腰の状態を見て、キャスター付きのイスを固定タイプに替えるというように、日々の生活の中で臨機応変に対応する。		